



● 「維持」の時代

ナカシャクリエイテブ株式会社
代表取締役会長 河合 保

20年ぐらい前、白と薄紅色の花水木が交互に植えられた道があり、通勤の途中目を楽しませてくれていた。全部で100本ぐらいあったのだろうか。ところが今では、20本ぐらいに減り、しかも惨めな姿をさらしている。事業主体の単年度予算のために、植樹して数年後から手入れの予算が付かなくなってしまったという。

事業は「計画・設計施工」と「維持・管理」が両輪となって初めて機能する。ところが現実には、ハコモノに象徴されるように、造るには造ったものの「維持・管理」が軽視され、忘れられがちだ。官公庁のように単年度予算で毎年人事異動があるとどうしても維持や継続が困難になり、管理にも十分手が回らない。企業ではそれほどではないにしても、似たような傾向が見られる。

既に色々な局面で徴候が見られるように、これからのビジネスにおいては、維持、管理、点検、保守、メンテナンスがキーワードとなる。当社では品質・情報セキュリティ・個人情報保護の認証を取得し、マネジメントシステムとして経営をサポートする仕組みを構築した。しかしこのところ、仕組みの構築よりもそれらの「維持」の難しさを痛感している。「維持」に近道はない。維持すべきことを明確に規定化し、教育・訓練し、実行し、チェックし、維持できなかったことには処置を施す。これらの地道な活動の繰り返しだけが強い「維持力」を産み出す。

当社の主たるお客様であるライフライン関連企業においても、近年は保守・メンテナンス等「維持」の時代に入った感が強い。保有施設の維持・継続である。「維持」は現状そのままを継続するだけでは決して達成できない。時代や社会・経済環境に合せた改革を常に必要とする。し

たがって、「維持」についてお客さまと共に考え、実行していく中で改革のヒントを得るケースが多い。そんな中で「点検支援ソリューション」等に重点的に取り組んでいるところだ。また、今年からBCM（事業継続管理）にも取り組み始めた。自社の維持対策ができなくてはお客様に維持関連の提案等できる筈がない。

世界の景気は相変わらず厳しい状況にある。輸出や生産の減少に伴い、企業収益や設備投資も大幅に減少している。加えて世界的な金融危機の深刻化や世界景気の一層の下振れ懸念、株式・為替市場の変動の影響など、景気をさらに下押しするリスクもまだまだ存在する。人は皆、奇跡的な景気回復を願うが、ある日突然回復するといったような奇跡はあり得ない。奇跡は決して突然起こるものではない。奇跡は、不思議な出来事や現象のことをいうので、傍目からは突然起きたように見える。しかし、起きた理由を探っていくと決して突然ではないのだ。奇跡は、着実な積み重ねからしか生まれない。2009年1月、「ハドソン川の奇跡」と呼ばれた不時着を成功させた米国の機長は「訓練通りに仕事をしたままで」と淡々と語っていた。また、冒険も華々しい行為に思われがちだが、南極に人生を捧げた元南極越冬隊長の村山さんの考えは違った。生前、雑誌に「我々の踏むプロセスはきわめて常識的です。その結果が前人未踏の大冒険などと言われるに過ぎない」と語っている。この経済的に困難な情勢の時代にあって、時に一見奇跡に見える好業績を「維持」していくためには、教育訓練の繰り返しにより、基本に則ったプロセスを根気よく着実にこなすことが、もっとも大切なことではなからうか。